

問答 俗問 答 上 鶴喜板



寛文三年

へ13  
 2946  
 217





特  
2946  
217

217

此巻

序辞 (口舌)

語曰温故知新とハ全躰きまぐれのほろろて是

昔一鉄心元年嘘月八百年前の文章早るまは如

予知見者豈得解焉哉爰及吾

日叔和哥者流の通語小言葉ハそれと以心新鋪する

と云ふ言葉小と云ふき衣服ハ古着を買て心ハ新鋪着

がりしと悟自是不佞南龍一生氏の知重心代候と

ゆつと上六天井前の赤異の故温下の疊の新の焼

穴と探の意の小十五丁の筋と穿て拾溜溺水と云ふと云ふ如く

カトも云ふ筆と混身と云ふ揮而已矣

三浦團之申歳  
観於初衣裳日

一片舎南龍題





















かんくびとまゝの身  
 うしろにさるとあまの  
 のねまのつけ木を  
 昔のまゝうたひます  
 といふ

それかんくびまゝの  
 かぎりだつともまゝの  
 まゝのまゝのまゝの  
 まゝのまゝのまゝの  
 まゝのまゝのまゝの  
 まゝのまゝのまゝの



つてま  
 かんくびとまゝの  
 昔のまゝうたひます  
 といふ



と  
 まゝのまゝのまゝの  
 まゝのまゝのまゝの  
 まゝのまゝのまゝの  
 まゝのまゝのまゝの  
 まゝのまゝのまゝの  
 まゝのまゝのまゝの





